

炉定数グループ

P_U 炉定数評価ワーキング、グループ議事録

日時 昭和43年6月17日 13.30~17.30
場所 原研本部第一会議室
出席者 水田(NAIG), 松延(住友), 川島(富士), 永山(原電),
瑞慶覧(日立・松岡代理), 関(MAPI. 小林代理),
桂木, 坂田, 石黒(原研)

議 事

1. 高速領域群定数計算結果の検討

各機関で分担してプロットした核種毎の σ_a , $\nu\sigma_f$ のグラフをもとに計算結果の検討を行い, 次のように整理することになった。

- (1) 数値に疑問と思われるものは担当機関で再検討し, 修正して関係機関に通知する。
- (2) 計算ケース全体に亘って各機関の計算結果が余り違わぬものはグラフにせず文章で説明する。
- (3) グラフの記入方法を統一する。

2. 固有値計算結果の検討

FOG一次元の計算結果からバックリングの値に疑問が生じたので以下の事項を基礎にして再計算することになった。

- (1) 標準値及び変化量は現在のまゝとし入力データでバックリングのみを修正する。
- (2) B_Z^2 の値として炉心高さ(燃料有効長)と外挿距離との和を用いる。但し6%濃縮のケースは外挿距離に15cm, 20cmの2ケースをとる。
- (3) ケース N_6 は統一する。

3. 報告書の作成

作業結果をJAERI-memoにすることにし, その目次, 分担およびそのまと

め方を次のようにする。

- | | |
|------------|---------------------------------|
| (1) 目次及び分担 | 分 担 |
| ま え が き | 原 研 |
| 作 業 経 過 | " |
| 熱中性子領域群定数 | 富士, 原電 |
| 高速中性子領域群定数 | NAIG, MAPI, 日立, 原研 まとめNAIG |
| 臨 界 計 算 | 住 友 |
| 結 論 | 原 研 |

(2) まとめ方

(i) 高速領域群定数は分担した各機関で計算方法および機関のライブラリの概略, 計算結果および検討結果を盛込んだ原稿を作成したのちNAIGで全体をまとめる。

(ii) 他の章は担当機関がそれぞれ原稿を作成する。

(iii) 報告書原稿の図表の統一など全体的なスタイルの統一は原研が行なう。

なお, 作成要領を原研で別途まとめ各機関に送付する。

4 今後の作業日程

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 計算結果(高速群定数)の修正 | 6月末 |
| (2) 高速領域群定数の原稿 | 7月末 |
| (3) 報告書原稿 | 8月末 |